

コムギにおける赤かび粒の粒厚および千粒重の特徴と被害粒の除去

古川農業試験場

1 取り上げた理由

高品質かつ均質で安全なコムギを安定供給するためには、適期に薬剤防除を行い赤かび病を回避することが重要である。しかし、栽培品種や気象条件によっては防除を徹底しても赤かび病の多発を招く場合がある。そこで、多発を招いた場合の収穫後の対策として、赤かび粒の粒厚選別および比重選別の有効性および品種間差（シラネコムギ、ゆきちから）を明らかにしたので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 粒厚が大きくなるとシラネコムギ、ゆきちからとも赤かび粒は減少するが、この減少傾向は発病程度にかかわらずシラネコムギと比較しゆきちからで緩慢である（図-2、3）。
- 2) 赤かび粒は健全粒と粒厚が同じでも千粒重が1～2割程度軽く、その傾向はシラネコムギ、ゆきちからとも同様である。（図-1）
- 3) 粒厚選別は赤かび粒の低減対策に有効であるとともに、比重選別を併用することでより効果的に除去できる。

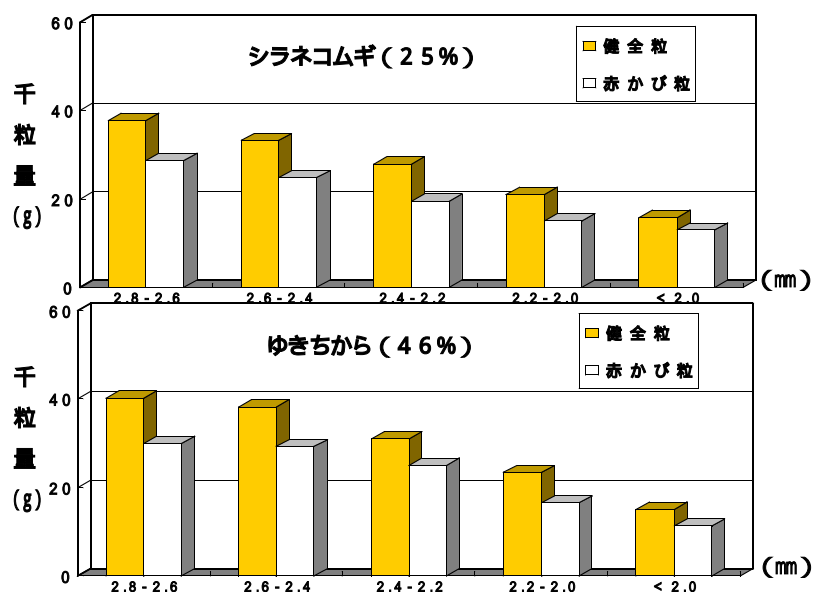


図-1 各品種の健全粒および赤かび粒の粒厚別千粒重

注1)平成17年産 古川農業試験場内定点調査ほコムギ(無防除)

注2)()内の数字は出穂約40日後における各品種の発病穂率

3 利活用の留意点

- 1) 本調査では「脱色して白い粒」かつ「しわ粒」を赤かび粒として扱った。

(問い合わせ先：古川農業試験場作物保護部 電話 0229-26-5108)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

麦類赤かび病の防除技術の開発 (平成16~19年度)

農作物有害動植物発生予察事業 (平成17年度)

2) 参考データ

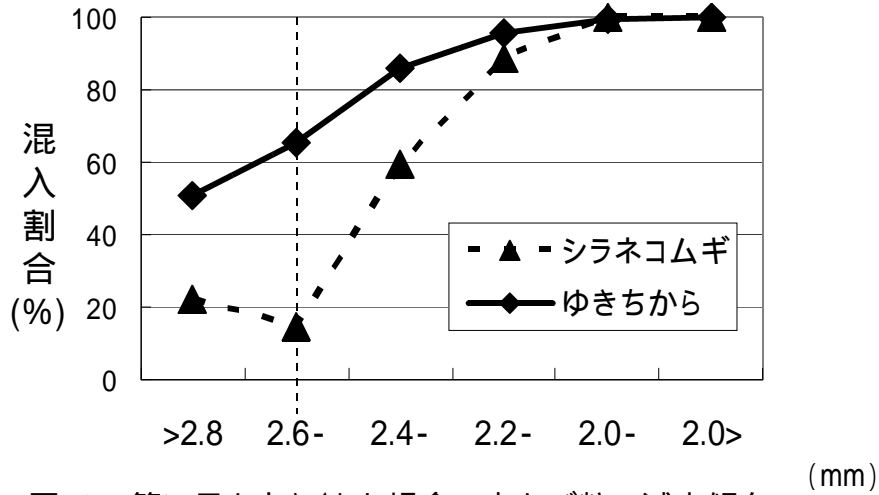


図-2 篩い目を大きくした場合の赤かび粒の減少傾向

注1) H16年産 涌谷現地ほ場 コムギ

注2) 粒厚2.0以下の赤かび混入率を100%とした場合の

各品種の篩い目別の赤かび粒混入割合

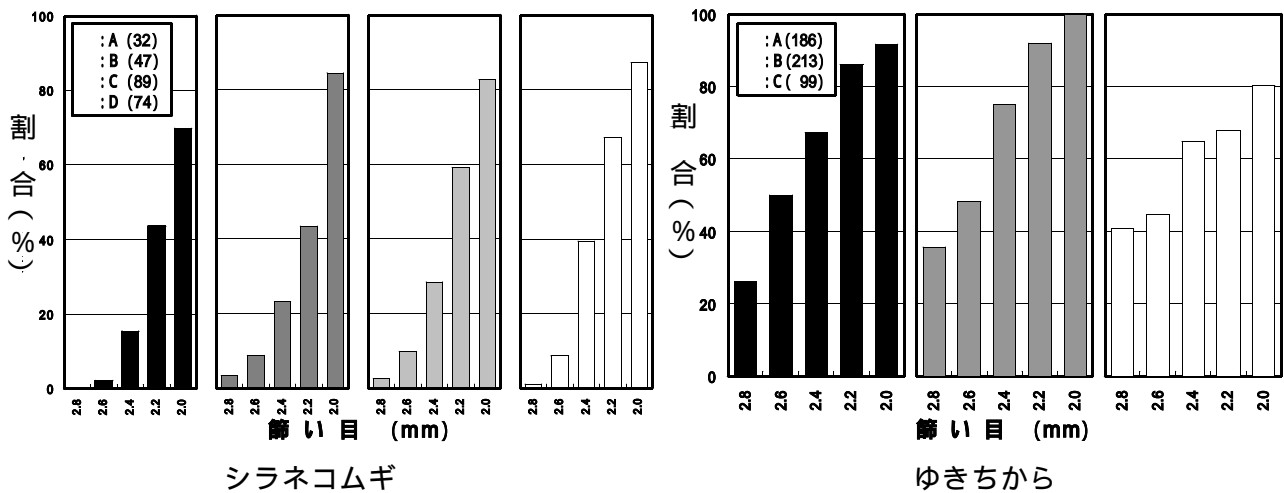


図-3 各品種の発病程度別の赤かび粒混入量の篩い目別の減少傾向

注1) H16年産 古川農業試験場内 コムギ(罹病麦稈接種)

注2) 粒厚1.8以下の赤かび混入率を100%とした場合の各品種の篩い目別の赤かび粒混入割合

注3) 凡例は下記の通りであり, () の数値は罹病穂のサンプル数を表す

シラネコムギ

- A: 穂の3/4以上の小穂又は粒が発病
- B: 穂の2/4~3/4の小穂又は粒が発病
- C: 穂の1/4~2/4の小穂又は粒が発病
- D: 穂の1/4以下の小穂又は粒が発病

ゆきちから

- A: 穂の2/3以上の小穂又は粒が発病
- B: 穂の1/3~2/3の小穂又は粒が発病
- C: 穂の1/3以下の小穂又は粒が発病

3) 発表論文等 なし